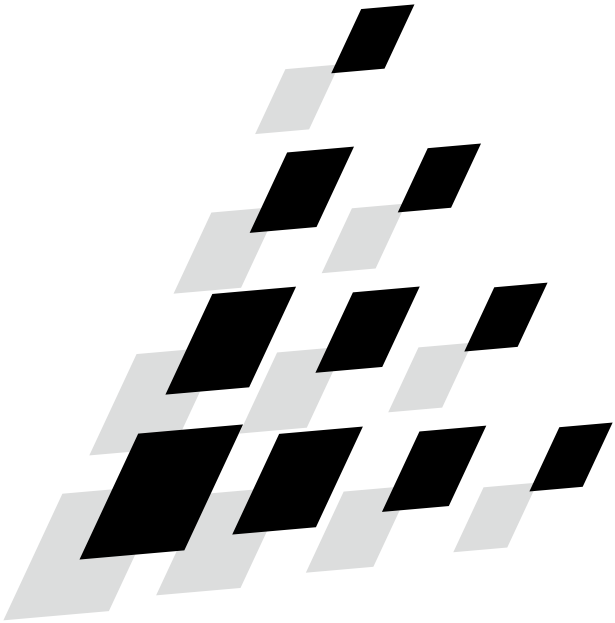
SERVIS™ Drawer

Liftup 17inch
[FD-5500AT Series]
取扱説明書



FUJITSU

本装置は、クラス A 情報技術装置です。
本装置を家庭環境で使用すると電磁妨害を引き起こすことがあります。
この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
VCCI-A

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されていない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

その他の製品名等の固有名詞は、各社の登録商標または商標です。
All Rights Reserved, Copyright © 富士通コンポーネント株式会社 2007

目次

1 はじめに. 2
1.1 表記規則 2
1.2 梱包品の確認 2
2 重要なお知らせ. 4
2.1 安全性 4
2.2 廃棄について 6
2.3 本製品の運搬 6
3 取り付け. 7
3.1 フロントブラケットの取り付け 7
3.2 ガイドレールの取り付け 8
3.3 本製品の取り付け 10
4 各部の名称と働き. 11
4.1 全体部 11
5 ケーブルの接続と取り外し. 13
5.1 ケーブルの接続 13
5.2 ケーブルの取り外し 13
5.3 ポートの接続（4 ポート KVM スイッチとの接続の場合） 14
6 操作. 15
6.1 本製品の操作 15
6.2 モニタの調整 18
6.3 基本的な調整方法 19
6.4 解像度とリフレッシュレート 21
6.5 Hot-Key スイッチの操作. 22
6.6 キーボードの操作、LED 表示及び Reset スイッチ. 22
6.7 4 ポート KVM スイッチをご使用の場合について. 24
6.8 マウスとボタン 24
6.9 マウス落下防止ワイヤーの取り付け 27
6.10 マウスの充電方法 28
6.11 リチウム電池の廃棄 28
6.12 本製品の格納 29
6.13 本製品のお手入れ 31
7 技術仕様. 32
8 トラブル対策. 34

1 はじめに

このたびは、サーバ用ラック搭載 SERVIS™ Drawer Liftup 17inch（以降、本製品または本装置と呼びます）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品をお使いになると、ラック作業空間の効率と機能が大幅に改善されます。また、コンパクト設計のスライドモジュールの採用で、従来のソリューションに比べてより広くなるスペースを別のコンポーネントに利用できます。さらにオプティカルリフレクトマウス（以後マウス）採用により、操作性が格段に向上します。17型 TFT モニタの解像度は 1280 × 1024 で、表示色は 1,677 万色です。また、キーボードも備えています。本製品に接続できるサーバは、DOS/V（PC/AT 互換）機対応コンピュータです。本製品は 4 ポート KVM スイッチと接続することができます。
＊ KVM スイッチ： Keyboard Video Mouse Switch

1.1 表記規則

この説明書で使用している記号と文字の意味は次のとおりです。

⚠注意

・ この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、及び物的損害（本製品またはサーバの損害など）が発生する可能性があることを示しています。

Point

・ この記号のあとの文書は補足説明、注釈、ヒントです。

- 文頭に数字（①など）がある場合は、順序にしたがっておこなう必要がある操作や図の箇所を指し示します。
- 参照する章のタイトルと用語を強調する場合は、カギ括弧(「」)で囲んでいます。

1.2 梱包品の確認

次のものが、梱包されていることをお確かめください。
●本体×1 ●電源ケーブル（2m）×1（B721/BS-R のみ添付） ●取扱説明書（本書）×1
●フロントブラケット中間取り付けタイプ×2 ●フロントブラケット前面取り付けタイプ×2
●フロントブラケット取り付けネジ×4 ●マウス落下防止キット×1 ●ハンドルバンド×1

万一、不備な点がございましたら、おそれいりますが、お買い求めの販売店または弊社担当までお申し付けください。また、購入時の梱包箱および梱包品を保管しておくことをおすすめします。別の場所に移動するときに必要になることがあります。

⚠注意

- 「2 重要なお知らせ」の安全情報に注意してください。
- 梱包箱から本体を取り出す際、モニタ部ハンドルを持たないでください。モニタ部だけが開き本体を落とすおそれがあります。

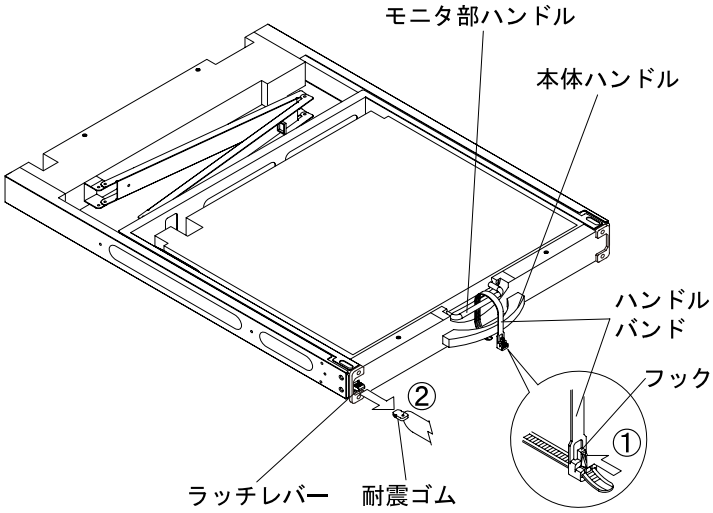
● 開梱時は本体に損傷がないか、配送品を確認してください。

① ハンドルバンドのフックをつまみ、ロックを解除して引き抜きます。

② 耐震ゴムを引き抜きます。

Point

- ハンドルバンドは、運搬の際や梱包箱から本体を取り出すときにモニタが開かないようにとめています。
- 耐震ゴムは、ラック取り付け時やラックの移動中に本製品がスライドしないように差し込んであります。
- ハンドルバンドや耐震ゴムは、本製品をラックに取り付けた後も必要になることがありますので、必ず保管しておいてください。



ハンドルバンドと耐震ゴムの取り外し図

2 重要なお知らせ

この章には、本製品で作業する際に注意しなければならない、安全性に関する情報を記載しています。よくお読みのうえ、正しくご使用ください。

2.1 安全性

⚠注意　安全上の注意

- 本装置は、事務オフィス環境で使用する電子事務用機器などの情報処理装置に関する安全規格に準拠しています。ご不明な点があれば、お買い求めの販売店または弊社担当に連絡してください。
- 本装置を運搬する際は、衝撃や振動を避けるため、購入時の箱か同等の箱を使用してください。ただし、変形及び破損等がある箱は、使用しないでください。本装置が破損する可能性があります。
- 本装置の取り付け中と使用前に、「7 技術仕様」の環境条件についての記事と「3 取り付け」の記事をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- 本装置を寒冷な環境から設置場所に移動すると、結露を生じることがあります。装置が完全に乾燥し、設置場所とほぼ同じ温度になってから使用してください。
- 地域の線路電圧が本装置の許容範囲であることを確認してください。定格電圧が本装置にあうようにされていることを確認してください（「7 技術仕様」と本装置の型式銘板を参照してください）。
- 本装置の電源ケーブルは特別に認可されたものです。設置壁コンセント以外には接続しないでください。感電、短絡の原因になります。
- 本装置の電源ソケットまたはラックの電源コンセントの周辺は、プラグの抜き挿しがすぐにできるようにしてください。
- 損傷しないようにすべてのケーブルを配置してください。ケーブルを接続したり取り外すときは、「5 ケーブルの接続と取り外し」の該当部分を参照してください。
- 雷雨のときは、データ伝送ケーブルを接続したり取り外したりしないでください。
- 本装置の内部に異物（ネックレスやクリップなど）や液体が入らないようにしてください。
- 緊急の場合（筐体、部品、またはケーブルの損傷、液体や異物の侵入など）は、ただちに装置からすべてのケーブルを外して、お買い求めの販売店または弊社担当に連絡してください。
- 本装置を修理できるのは資格のある技術者だけです。資格のないユーザーが本装置を開いたり誤った修理をおこなうと、感電や火災などの原因になることがあります。
- ケーブルは強く引っ張らず、必ずコネクタ部を持って抜いてください。
- 体調の悪い状態でのキー打鍵や長時間の連続キー打鍵は避けてください。

- 濡れた手での使用は避けてください。
- 濡れた手でコネクタの抜き挿しをしないでください。
- 本装置の上には、コップなど不要な物をおかないでください。
- 改造または修理をしないでください。
- 警告マーク（稲妻マークなど）が付いている部品（電源装置など）の解放、取り外し、交換は、資格のある人以外はできません。
- モニタ説明の「7 技術仕様」で指定されている解像度とリフレッシュレートしか設定できません。ご不明な点があれば、お買い求めの販売店または弊社担当にご連絡ください。
- 周辺機器用のデータケーブルは、干渉を防ぐために適切な絶縁処理が必要となりますので、専用のケーブルをご使用ください。
- 線路電圧を切断するときには、電源コンセントから電源プラグを抜きます。
- 本製品を清掃するときは、「6 操作」の該当部分にしたがってください。
- 本製品を引き出した状態では、本機の角などにぶつけると危険ですので十分注意して操作してください。
  本製品を使用しない場合や本製品以外のサーバや周辺機器など操作する場合には、本製品をラック内に格納することを推奨します。
- 本製品を引き出した状態で、脚立代わりに使用したり、よりかかったりすると、ラックが転倒する可能性があり危険ですので、おやめください。
- 本製品には有寿命部品（LCD など）が含まれており、長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になります。
- 本製品を安定した状態でご使用になれる期間（耐用年数）は 5 年が目安です。
  ※ 1 日 8 時間で月当たり 200 時間動作、使用環境が 25℃を想定した場合の目安です。ただし、有寿命部品を除きます。
- 本書は本装置とともに大切に保管してください。本装置を第三者に譲渡する場合は、本書も譲渡してください。

⚠注意　ご使用上の注意

ご使用の前に［ご使用上の注意］をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。ここに記載の注意事項はユーザー様への危害、財産への損害を未然に防止するための内容を記載していますので、必ずお守りください。

- 各コネクタの抜き差しはサーバの電源が OFF になっていることを確認してから行ってください。また、静電気にも十分注意し放電してから行ってください。静電気が貯まったままや、電源が ON のまま抜き差しすると、サーバまたは本機の故障の原因となる場合があります。その場合の故障は保証対象外ですので、ご了承ください。

- 本機に接続できるサーバは、DOS/V（PC/AT 互換）機です。ただし、各サーバは以下のキーボード、マウスコネクタ及びモニタコネクタを装備した機種です。それ以外の機種ではご使用になれません。
  ・DOS/V　　：ミニ DIN 6P メス（PS/2 キーボード、PS/2 マウス用）各 1
  　　：Mini D-SUB 15P メス（モニタ用）
- PS/2 キーボードとマウスのコネクタは同じ形状ですので、色等を確認し正しく接続してください。無理に差し込んだり間違って接続すると、動作しないばかりか故障の原因となる場合があります。
- コンソールのキーボード、マウスと各サーバの設定は正しく設定してください。設定が間違っていると正常に動作しません。
- 高解像度や接続環境でのゴーストやニジミ等の画質劣化は、モニタケーブルやビデオカードが影響している場合があります。また､ディスプレイとビデオカードの組合せによっては、正常に表示できない場合もあります。ビデオカード等の接続環境を変更してみてください。
- モニタケーブルのコネクタは Mini D-SUB 15P です。コネクタの向きを確認し、固定ネジで確実に固定してください。確実に接続されませんとトラブルの原因となります。

2.2 廃棄について

本装置は、金属、プラスチック部品及び、液晶蛍光管の中には水銀を使用しています。廃棄するときは、各自治体の指示にしたがってください。

2.3 本製品の運搬

⚠注意

・ 本製品を別の場所に運搬する際は、購入されたときに本装置が入っていた箱か、衝撃や振動から製品を保護できる箱を使用してください。運搬処理がすべて完了するまで、本製品は開梱しないでください。

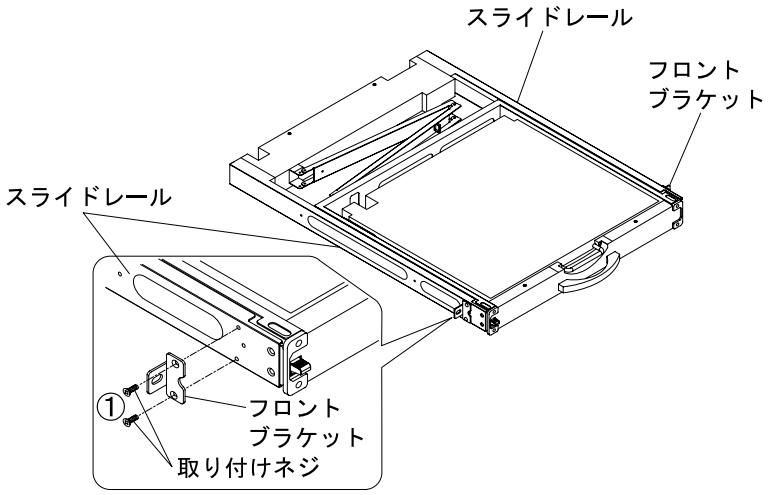
3 取り付け

⚠注意

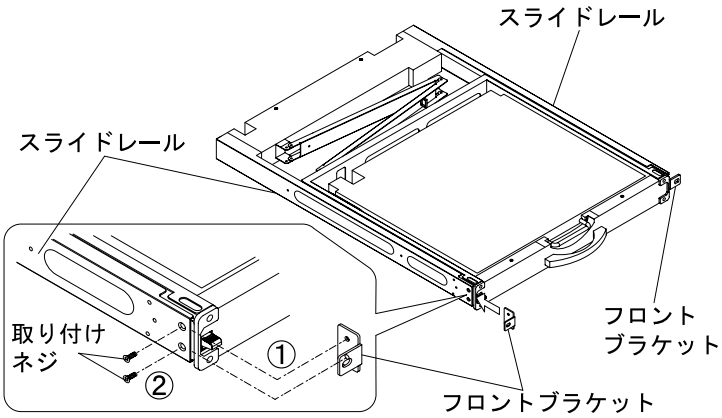
- 「2 重要なお知らせ」の安全情報をよく読んでください。
- 本製品は、設置環境を守ってご使用ください（「7 技術仕様」を参照してください）。
- 本装置は、重量が約 14Kg ありますので、必要の場合は、取り付けを 2 人以上でおこなってください。
- 本製品とガイドレールの間に、指や手を挟まないように注意してください。

3.1 フロントブラケットの取り付け

① 左右のスライドレールにフロントブラケットを取り付けネジで固定します。
- フロントブラケット中間取り付けタイプは、本ページの図参照。
- フロントブラケット前面取り付けタイプは、次ページの図参照。



フロントブラケット中間取り付けタイプの取り付け図



フロントブラケット前面取り付けタイプの取り付け図

3.2 ガイドレールの取り付け

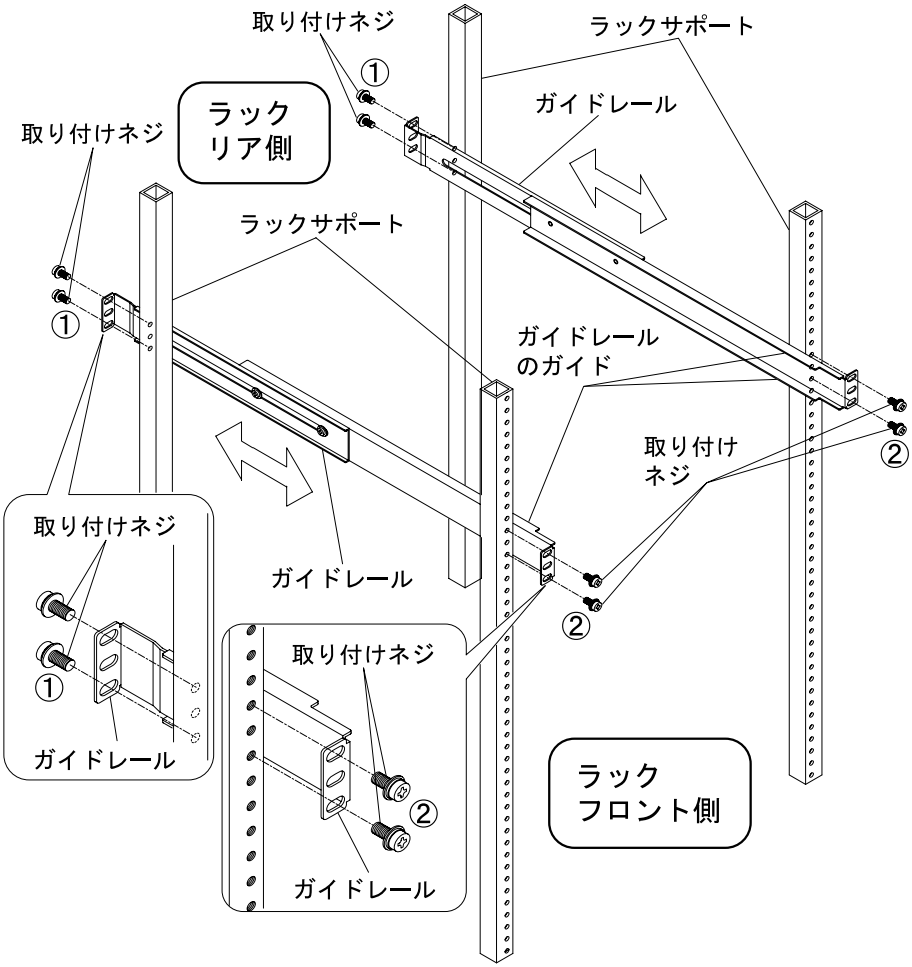
Point

- ガイドレールは、本製品が載せられるように、ガイドを前方、内側を向くように取り付けます。
- 次ページの「ガイドレールの取り付け図」を参照してください。

① リア側のラックサポート外側にガイドレールを合わせ、ガイドレール上下の穴を取り付けネジで固定します。(取り付けネジはラックサポートに適合する同梱の M5 または M6 取り付けネジどちらかを使用します。)

② フロント側のラックサポート外側にガイドレールを合わせ、ガイドレール上下の穴を取り付けネジで固定します。(左右ガイドレールの取り付け位置は同じ高さにしてください。)

● ガイドレール取り付けについてはガイドレールに同梱されている取り付け説明書も参照ください。



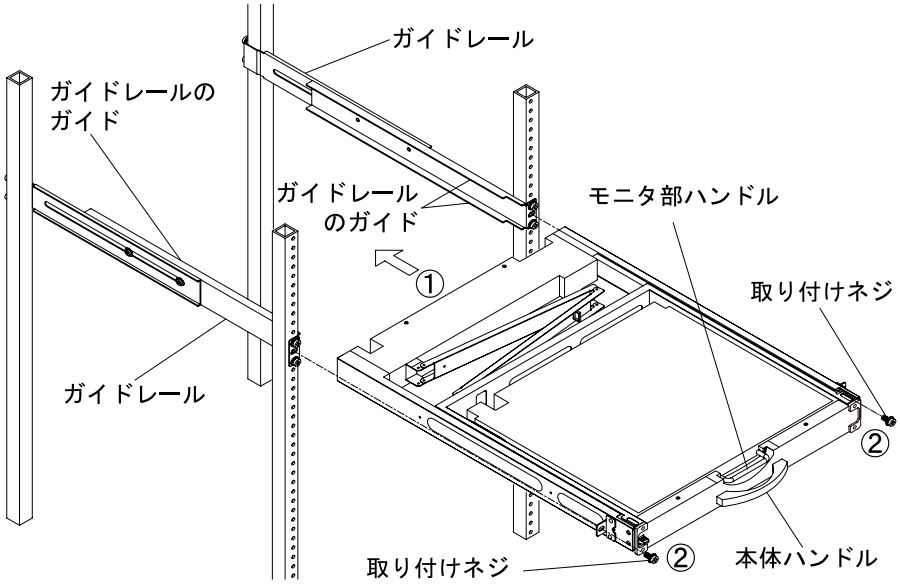
ガイドレールの取り付け図

3.3 本製品の取り付け

⚠注意

- ラッチレバー [15 ページ参照] が解除されないように注意してください。ラッチレバーが解除されていると本製品がスライドするおそれがあります。
- ガイドレールに本製品を取り付けるときは、2 人以上で持って入れてください。電源ケーブルは接続しないでください。
- 本製品を持ち上げるときはモニタ部ハンドルを持たないでください。モニタ部だけが開き本体を落とすおそれがあります。

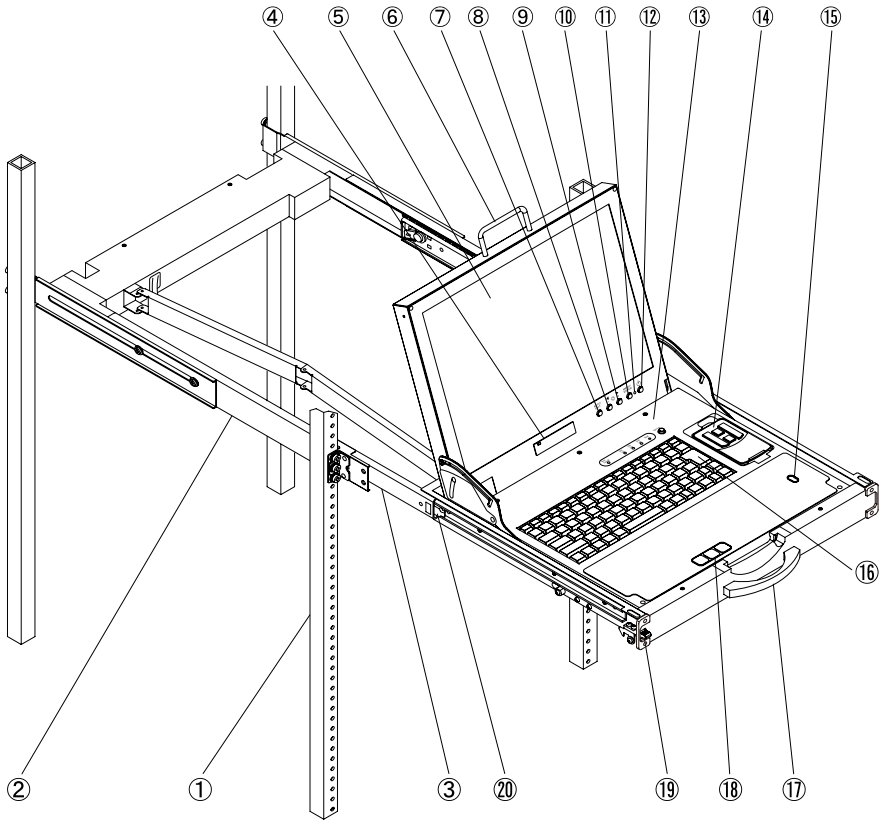
① ガイドレール前方から本製品を入れます。
② 本製品をフロントブラケットの位置まで押し込み、前面 2 箇所を取り付けネジで固定します。



本製品取り付け図

4 各部の名称と働き

4.1 全体部

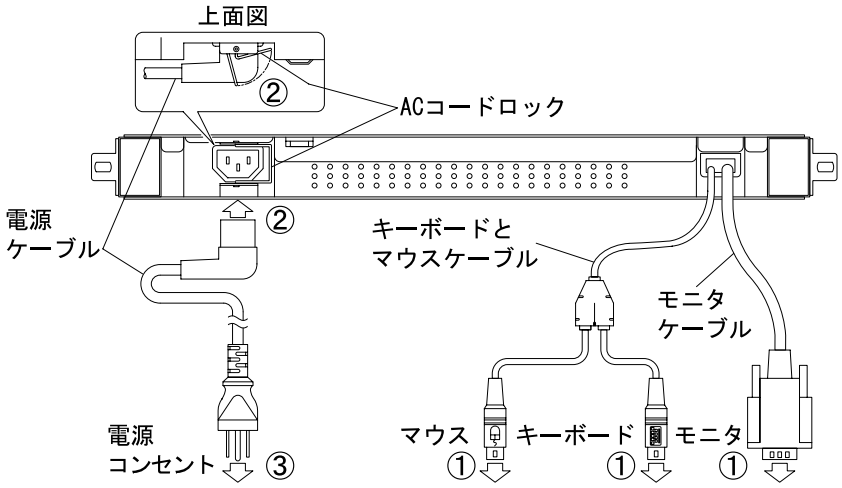


① ラックサポート
ガイドレールを取り付けます。
② ガイドレール
本体をラックに取り付けるためのガイドです。
③ スライドレール
本体をラックから引き出したり、格納する際、本体がスライドします。
④ マウス受光部
マウスボタンの信号を受信します。また、電池残量の警告ランプがあります。
⑤ モニタ
サーバの状態やモニタの OSD を表示します。
⑥ モニタ部ハンドル
モニタ部開閉時に使います。
⑦ AUTO/EXIT ボタン
メニュー画面消去、調節項目取り消し、設定値の取り消し、自動調節時に押します。
⑧ ◀－ボタン
左方向移動、値を減らすときに押します。
⑨ ▶＋ボタン
右方向移動、値を増やすときに押します。
⑩ MENU/ENTER ボタン
メニュー画面の表示、調整項目決定、設定値保存時に押します。
⑪ 電源ランプ
モニタ電源が入っていると青色に点灯。省電力時は橙色に点灯。
⑫ 電源ボタン
モニタ電源の入切をおこないます。
⑬ LED と Reset、Hot-Key スイッチ
キーボード操作時の LED 表示とリセット用のスイッチ。サーバ切り替え用に OSD（On Screen Display）表示させるときの Hot-Key スイッチです。
⑭ マウス
収納部より取り外し、光学センサ上で操作します。画面のカーソルを動かします。
⑮ マウスの光学センサ
この上でマウスを操作します。光学センサから外れるとカーソルは動きません。
⑯ キーボード
サーバの操作や文字入力をおこなうときに使います。
⑰ 本体ハンドル
ラックから本体を引き出したり、格納するときに使います。
⑱ マウスボタン
マウスの左、中、右ボタンの働きをします。
⑲ ラッチレバー
本体を引き出すときに押し下げます。
⑳ 固定バネ
ラックに本体を格納する際は固定バネを押して本体をスライドさせます。

5 ケーブルの接続と取り外し

5.1 ケーブルの接続

● 影響を受ける装置すべての電源プラグを電源コンセントから抜きます。
① キーボードケーブル、マウスケーブル、モニタケーブルをそれぞれの装置に接続します。
② 電源ケーブルを本製品の電源ソケットに差し込みます。電源ケーブルが抜けないように AC コードロックをセットします。
③ 電源ケーブルをラックの電源コンセントに差し込みます。



本製品後面のケーブル接続図

5.2 ケーブルの取り外し

影響を受ける装置すべての電源プラグを電源コンセントから抜いてから、各ケーブルを取り外してください。

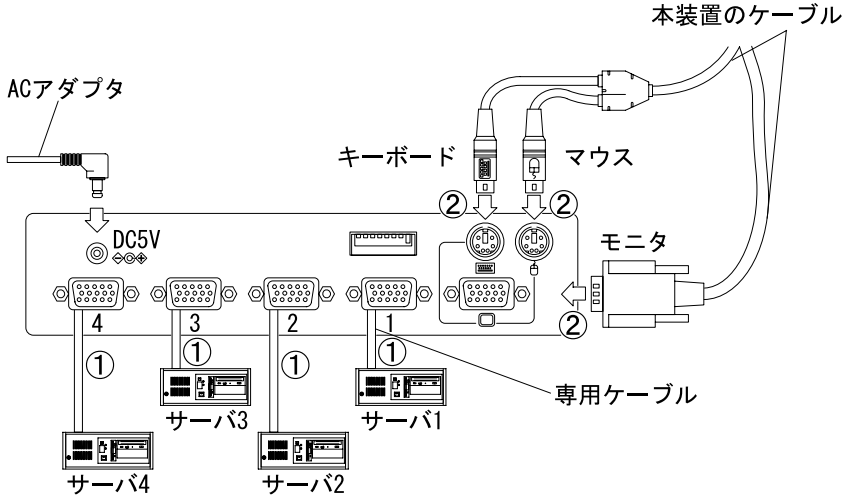
5.3 ポートの接続（4 ポート KVM スイッチとの接続の場合）

⚠注意

- ポートの接続、取り外し時は、「2 重要なお知らせ」の注意に準じてください。また、ポートが影響を受ける装置の電源を切っておこなってください。
- 4 ポート KVM スイッチの取扱説明書もあわせてよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- 本装置交換時、またはKVMスイッチ、遠隔ユニットの交換時も含め、ドロアの PS/2 コネクタを活性挿抜する場合には、マウスコネクタを先に接続してからキーボードコネクタを接続してください。

ポート数のサーバが接続できます。

① サーバのキーボードポート（PS/2）、マウスポート（PS/2）、モニタポート（VGA）と 4 ポート KVM スイッチのポートを専用ケーブルで接続します。
② 本装置のキーボードケーブル、マウスケーブル、モニタケーブルをそれぞれ CONSOLE のキーボード、マウス、モニタポートに接続します。
（マウスをキーボードより先に接続してください。）
③ AC アダプタを接続します。



4 ポート KVM スイッチのケーブル接続図

6 操作

⚠注意

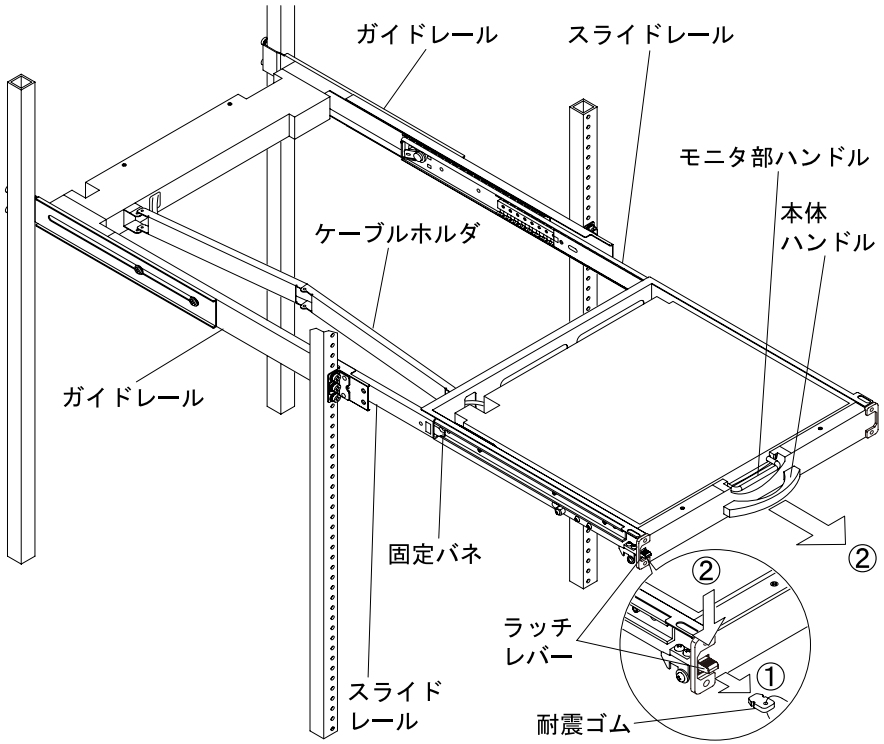
- 本製品は、スライドレールがロックされるまでゆっくり手前に引き出してください。
- ロックされていない場合、もたれ掛かると本製品は動いてしまいます。
- スライドモジュールの引き出し、押し込み時やモニタ部の開閉時などを実施する際には、手を挟まないよう十分注意して実施してください。
- 本製品を引き出しているときやモニタ部を開いて使用している場合に、強い力を加えると、ラックが転倒するおそれがありますので注意してください。
- モニタ画面を強く押したり、硬いものでこすったり、磁石などを近づけないでください。破損の原因になります。
- 本製品を引き出した状態では、本機の角などにぶつけると危険ですので十分注意して操作してください。
- 本製品を使用しない場合や本製品以外のサーバや周辺機器など操作する場合には、本製品をラック内に格納することを推奨します。

6.1 本製品の操作

① ハンドルバンドや耐震ゴムを、外してください。
② 本製品前面左側のラッチレバーを押し下げ、本体ハンドルを持って本製品を引き出します。
本製品本体は、カチッと音がするまで引き出してください。

Point

- 本製品が、前面部 2 本の取り付けネジでラックにきちんと固定されていることを確認してから、引き出してください。

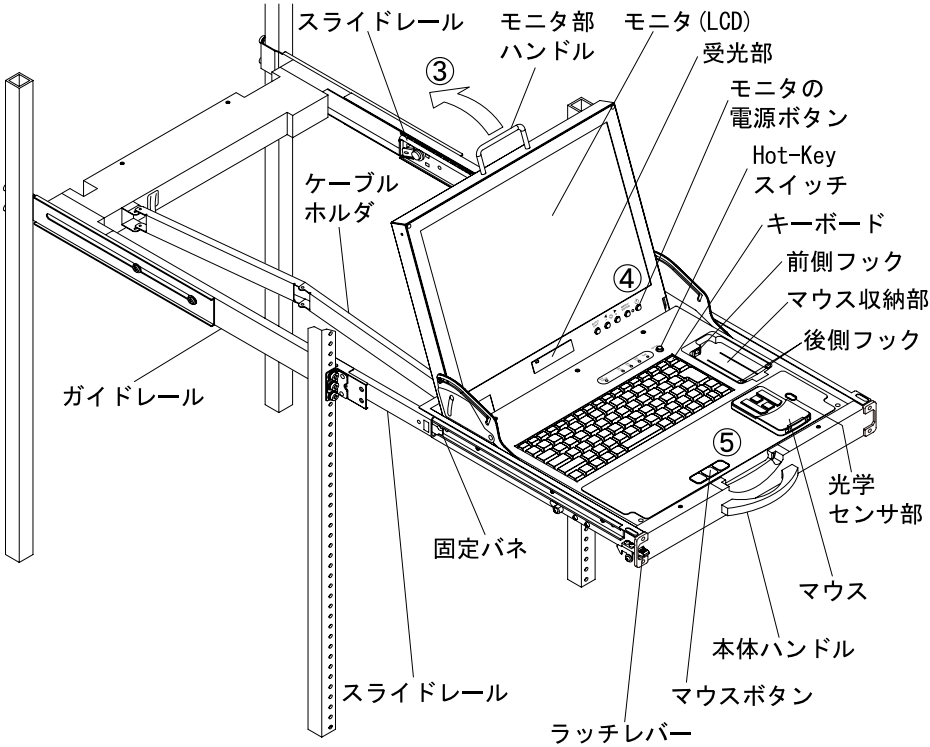

ガイドレール
スライドレール
モニタ部ハンドル
本体
ハンドル
ケーブルホルダ
ガイドレール
固定バネ
②
②
ラッチ
レバー
①
スライド
レール
耐震ゴム

本体部引き出し図

③ モニタ部のハンドルを持ちモニタを上側に開きます。
④ 電源ボタンを押して、モニタの電源を入れます。
接続してあるサーバの電源を入れます 。
⑤ マウス収納部からマウスの前方を少し上げて前側フックを外します。斜めのまま前方に引き抜き後側フックを外してマウスを取り出します。

Point

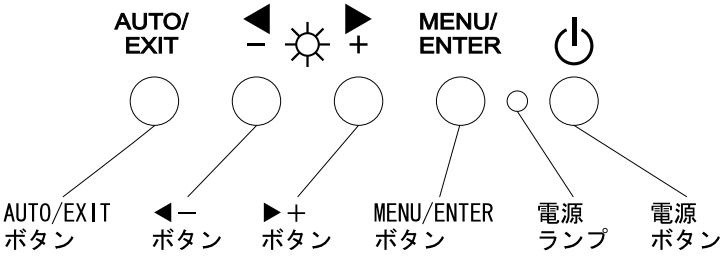
- モニタ部は完全に引き起こしてください。
- マウスは光学センサ上で操作してください。光学センサから外れるとカーソルは動きません。
- 初めてご使用になる場合や、Low Battery LED が点滅する場合は、マウスの充電をおこなってください。



モニタ部開閉図

6.2 モニタの調整

モニタ部には、1 つの LED と 5 つのボタンがあり、右から順番に説明します。



電源ボタン　　：モニタの電源を入れるときに押します。また、電源が入っているときに押すとモニタの電源が切れます。

電源ランプ　　：モニタの電源が入っているときに青色に点灯し、省電力状態のときは橙色に点灯します。モニタの電源が切れていると消灯します。

MENU/ENTER ボタン：メニュー画面の表示、調整項目の決定、設定値を保存する場合に押します。

▶+　ボタン　　：右方を選択するときや値を増やす方向に変化させる場合に押します。

◀−　ボタン　　：左方を選択するときや値を減らす方向に変化させる場合に押します。

AUTO/EXIT ボタン ：メニュー画面の消去、調節項目の取り消し、設定値の取り消し、自動調節する場合に押します。

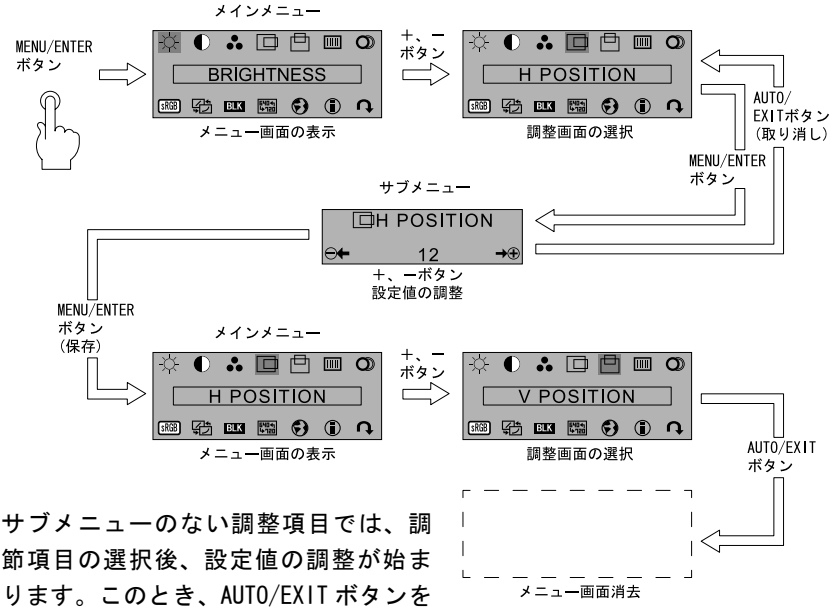
Point

- メニュー画面を表示させずに、▶+、◀−ボタンを押すと画面の明るさ（BRIGHTNESS）を直接調整することができます。
- メニュー画面を表示させずに、AUTO/EXIT ボタンを押すと自動調整（POSITION と FOCUS）をおこないます。
- 画面のノイズは設定メニューの FOCUS 及び CLOCK の調整で除去できます。

⚠注意

- 本製品を引き出しているときやモニタ部を開いて使用している場合に、強い力を加えると、ラックが転倒するおそれがありますので注意してください。
- モニタ画面を強く押したり、硬いものでこすったり、磁石などを近づけないでください。破損の原因になります。
- 本製品を引き出した状態では、本機の角などにぶつけると危険ですので十分注意して操作してください。
- 本製品を使用しない場合や本製品以外のサーバや周辺機器など操作する場合には、本製品をラック内に格納することを推奨します。

6.3 基本的な調整方法



サブメニューのない調整項目では、調節項目の選択後、設定値の調整が始まります。このとき、AUTO/EXIT ボタンを押すと、メニューに戻りますが、設定は保存されません。

ただし、メニュー画面を表示させずに、▶+、◀−ボタンを押したときの画面の明るさ（BRIGHTNESS）調整の場合は、設定値を変更する毎に保存されます。

調整項目

記号	英語表示	調整内容
	BRIGHTNESS	画面全体の明るさを調整します。
	CONTRAST	画面全体の濃淡の強さ(コントラスト)を調整します。
	COLOR	画面の表示色を調整します。固定値の設定や赤 / 緑 / 青の色合いを個別に設定できます。
	H POSITION	表示位置を左右に調整します。
	V POSITION	表示位置を上下に調整します。
	CLOCK	帯状（縦）のノイズが発生する場合に調整します。
	FOCUS	文字のにじみや画面の水平方向のノイズが発生する場合に調整します。
	SRGB	sRGB の ON/OFF の切り替えができます。
	PICTURE MODE	コントラストカーブの切り替えができます。中間調での表現を変えることができます。
	BLACK LEVEL	黒色のオフセット基準を任意に設定できます。
	TEXT MODE	DOS 画面表示時の解像度を設定できます。英語 DOS 時は、720 × 400 を選択してください。
	LANGUAGE	表示言語を変更します。 （英語、ドイツ語、イタリア語、フランス語、スペイン語）
	INFORMATION	現在表示されている解像度、垂直同期周波数及び各種調整項目（一部を除く）の設定値を表示します。
	RECALL	ご購入時の設定値に戻します。 ・ READJUSTING 全項目を戻します。 ・ GEOMETRY 表示している解像度（モード）の画面位置､クロック及びフォーカスを戻します。 ・ COLOR ブライトネス、コントラスト、黒レベル、及びカラー調整を戻します。

6.4 解像度とリフレッシュレート

解像度	水平周波数 (KHz)	垂直周波数 (Hz)	モード
640 × 400	31.5	70	VGA 400 Line
640 × 480	31.5	60	VGA Standard
	37.5	75	VESA
	37.9	73	
720 × 400	31.5	70	
800 × 600	35.2	56	
	37.9	60	
	46.9	75	
	48.1	72	
1024 × 768	48.4	60	
	56.5	70	
	60.0	75	
1280 × 1024	64.0	60	
	80.0	75	
1152 × 900	61.9	66	Sun コンポジット
	71.8	76	
1280 × 1024	71.4	67	

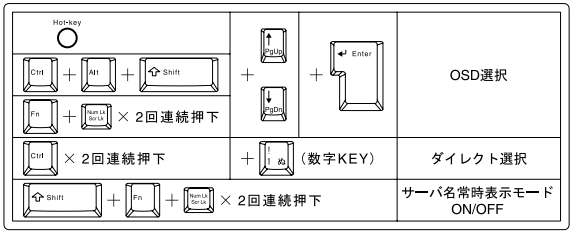
LCD の表示に関する注意事項

電源投入直後や OS 起動時または終了時には画面の表示位置がずれたり、画面が点滅したり、乱れたりすることがありますが故障ではありませんのでそのままご使用ください。1280 × 1024 以外の解像度もすべてフルスクリーン表示となります。1280 × 1024 以外の解像度では、文字の輪郭がはっきり見えなかったり、細かなストライプの太さが揃わなかったりすることがあります。これは、擬似的に拡大表示（フルスクリーン表示）しているためであり、故障ではありませんのでそのままご使用ください。画面上の一部に点灯しないドットや常時点灯するドットが存在する場合がありますが、液晶ディスプレイの特性であり、故障ではありませんのでそのままご使用ください。

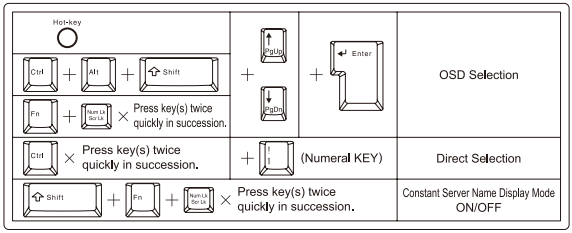
6.5 Hot-Key スイッチの操作

当社 KVM スイッチ（FS シリーズ）を接続した場合は、ホットキーモードになります。

日本語キー操作説明シート



US（英語）キー操作説明シート


Hot-key
Ctrl + Alt + Shift
Fn + Num Lk Scr Lk × Press key(s) twice quickly in succession.
Ctrl × Press key(s) twice quickly in succession.
Shift + Fn + Num Lk × Press key(s) twice quickly in succession.
PgUp
PgDn
Enter
+
OSD Selection
+ 1 (Numeral KEY)
Direct Selection
Constant Server Name Display Mode ON/OFF

6.6 キーボードの操作、LED 表示及び Reset スイッチ

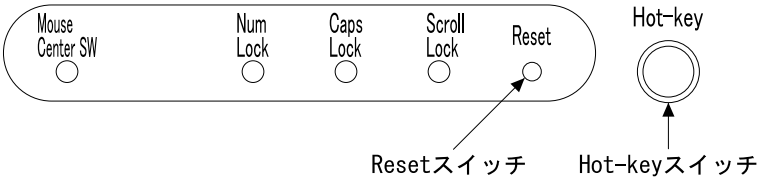
Num Lock LED : Num Lock 有効 (LED On)/ 無効 (LED OFF)

Caps Lock LED : Caps Lock 有効 (LED On)/ 無効 (LED OFF)

Scroll Lock LED : Scroll Lock 有効 (LED On)/ 無効 (LED OFF)

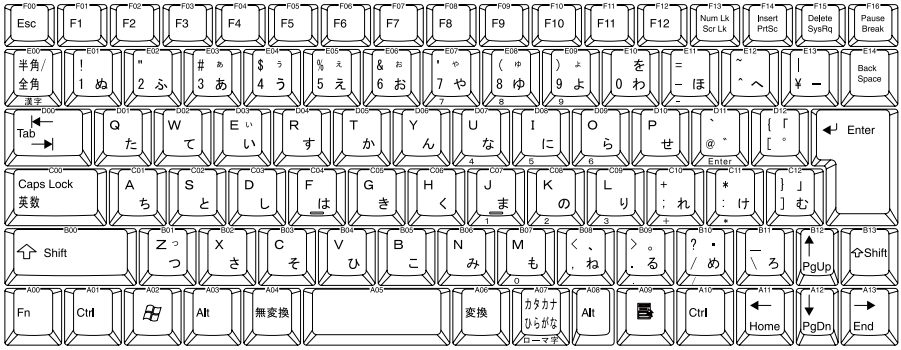
Mouse Center SW LED : マウスのセンタースイッチ有効 (LED On)/ 無効 (LED OFF)
MOUSE Center SW を有効にするためには、Hot-key スイッチを押しながらマウスボタンの中ボタンを押してください。また、同じ操作をすると無効となります。

Reset スイッチ : 通常は使用しません。当社KVMスイッチが接続されている場合には当社 KVM スイッチも Reset がかかります。ただし、2 段目（スレーブ）の当社 KVM スイッチには Reset はかかりません。キーボード、マウスが操作できなくなったときに使用します。金属製のピン等の先で軽く押してください。

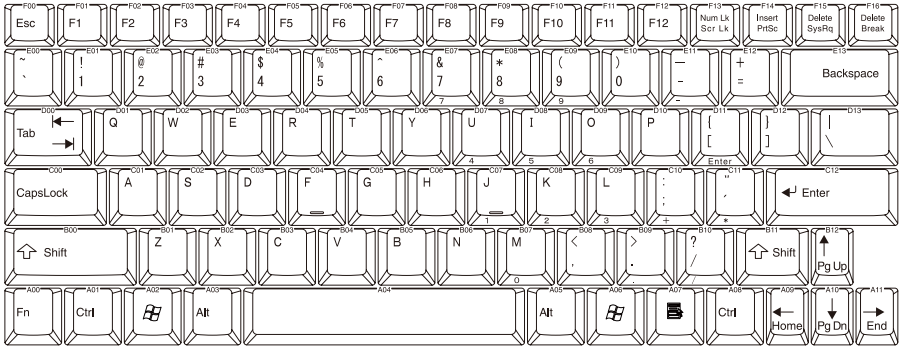


〈Fn〉キーとの組み合わせにより、省スペースながらフルキーボードと同等の操作が可能です。

日本語キー配列



US（英語）キー配列



Point

- “〈Pg Up〉キーを押す場合”〈Fn〉+〈↑〉キーを押してください。
- “〈Scr Lk〉キーを押す場合”〈Fn〉+〈Scr Lk〉キーを押してください。

6.7 4 ポート KVM スイッチをご使用の場合について

異なるタイプの CRT コントローラを備える複数のサーバで使用すると、設定が同じでも画像の位置が違うことがあります。一般に解像度とリフレッシュレート（垂直周波数）はすべてのサーバで同じであるため、これらの設定に対応するパラメータの 1 種類のセットだけが、画面に対して記憶されます。
画面上でずれた画像を修正すると、別のサーバでの表示が影響を受けることがあります。
ずれた表示を修正するには、次の設定を変更してください。

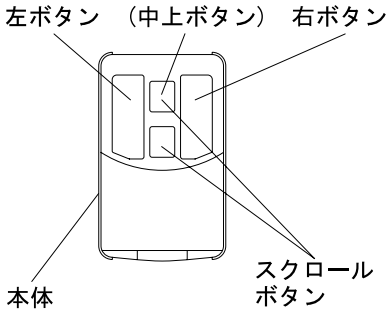
① 画像が正しく表示されないサーバのリフレッシュレートを別の値に設定します。
② 最適な画面表示を選択し、その設定を保存します。

一般に解像度に対して複数のリフレッシュレートを設定できるため、画面に対して複数のオプションを利用できます。

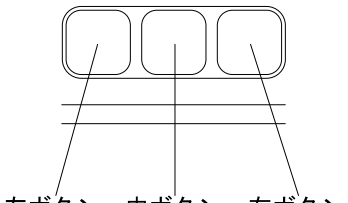
6.8 マウスとボタン

⚠注意

- マウスは長時間使用すると手や指の健康に影響をおよぼすことがあります。ときどき休憩をとってご使用ください。
- 故障の原因になりますので、次のことはおこなわないでください。
  ぶつけたり、落とさない。
  重いものをのせたりしない。
  濡れた手で操作したり、水などにつけない。
  分解、改造などしない。
  車の中や直射日光のあたる場所に置かない。
  ほこりの多い場所や高温多湿な場所で使わない。
- マウスを収納部から外すと光学センサが点灯します。強い光を発する場合がありますので、光学センサはのぞきこまないでください。



マウス



マウスボタン

- 左ボタン
  通常、指定や選択する場合に押します。
- 右ボタン
  ショートカットなどを表示する副ボタンです。
- 中ボタン
  カーソルをアクティブにします。
- スクロールボタン（マウスのみ）
  画面表示がスクロールします。
- 本体（マウスのみ）
  動かすとモニタ画面のポインタ（矢印）が移動します。
- Mouse Center SW
  Mouse Center SW が有効な状態であれば､マウスの「中上ボタン」が「中ボタン」として使用できます。(AIX､HP-UX 等の 3 ボタンマウスとして使用できます。)

Point

- 初めてお使いになるときはマウスの電池絶縁シート(Li フィルム)を引き抜き、その後収納部にマウスを入れて充電することをお奨めします。
- マウスは収納部から取り外して使用します。収納された状態では使用することができません。
- マウスは光学センサ上で動かします。光学センサから外れるとカーソルは動きません。
- マウスの電池がなくなったり、マウスの受光部をふさぐとマウスのボタンは操作できません。
- マウスの電池残量が少なくなると電池残量警告ランプが点滅します｡早めにマウスを充電してください｡マウスの充電方法は28ページ「6.10 マウスの充電方法」を参照ください。

Point

・ マウスの中上ボタンをスクロール機能で使用するか、あるいは中ボタンとして使用するかを選択できます。
本装置の Mouse Center SW LED で選択状態を表示します。
点灯時： 中ボタンとして機能中
消灯時： スクロールボタンとして機能中
切り換え操作は、Hot-key を押しながら本装置の中ボタンを押します。上記の操作をおこなう毎に、Mouse Center SW LED が点灯⇒消灯、消灯⇒点灯になり、マウスの中上ボタンの機能を選択できます。KVM スイッチ接続時には、Hot-key を押すと LCD に OSD が表示されますが、そのまま本装置の中ボタンを押して、中上ボタンの機能を選択してください。

	PS/2	USB	SUN
初期状態	消灯	消灯	点灯（固定）

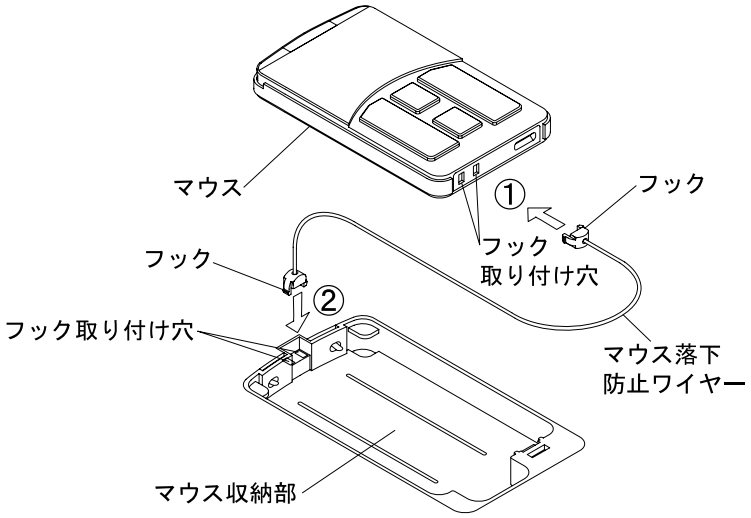
6.9 マウス落下防止ワイヤーの取り付け

Point

・ マウスにマウス落下防止ワイヤーを取り付けることで、マウスを不用意に落としたり、紛失から防ぐことができます。

① マウス前面のフック取り付け穴にマウス落下防止ワイヤーのフックを差し込みます。
② マウス落下防止ワイヤーのもう一方のフックをマウス収納部のフック取り付け穴に差し込みます。

● 取り外しは逆の手順でおこないます。



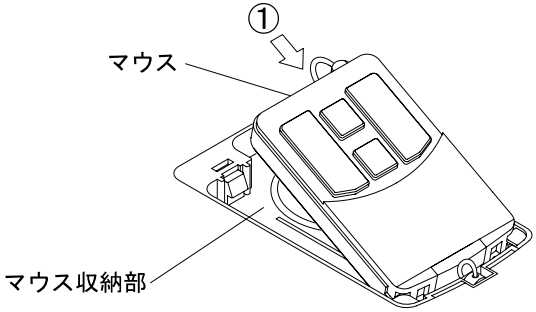
マウス落下防止ワイヤー取り付け図

6.10 マウスの充電方法

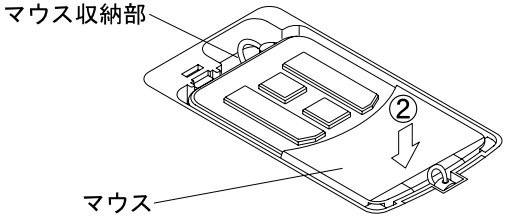
Point

- 作業終了時はマウスを収納部に入れて充電してください。
- マウスは本装置への AC コードの接続だけでは充電しません。サーバと接続した状態で充電可能となります。

① マウス収納部にマウスを奥側から手前にすべらせるように入れます。



② マウスは収納部に入れると自動的に充電します。（そのとき、光学センサの LED は消灯します。）



6.11 リチウム電池の廃棄

- マウス電池の取り扱いについて
  内部の電池は絶対に交換しないでください。
  （不適切なタイプの電池と交換したり、極性（+/−）を逆にすると爆発の危険があります。）
  使用済みの電池は各自治体の指示に従って廃棄してください。
  電池の交換が必要になった場合は、販売元へお問い合わせください。

6.12 本製品の格納

モニタとキーボードが必要ない場合は、本製品をラックに格納することができます。

Point

- 本製品本体の出し入れはゆっくりおこなってください。

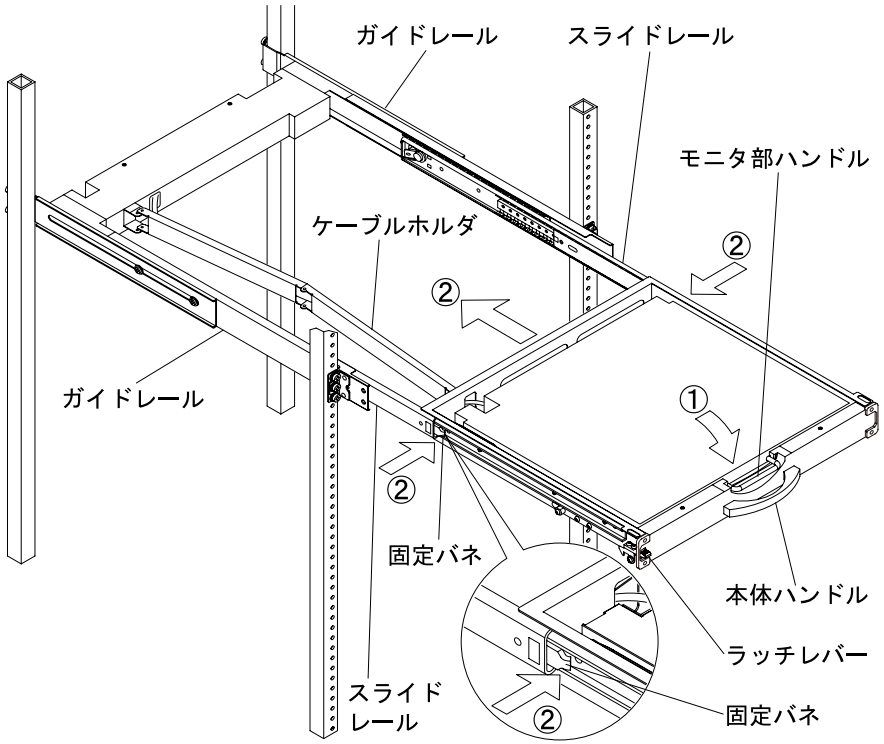
● マウスを収納します。
モニタの電源ボタンを押して、モニタの電源を切ります。
① モニタ部を閉じます。
② スライドレール両側の固定バネを押して本製品本体をラックに押し込みます。
ラッチレバーが掛かったことを確かめます。

⚠注意

- 本製品を格納する場合、ガイドレールやスライドレール、本製品本体に指や手を挟まないように注意してください。
- ラッチレバーが掛かっていないとラックを動かしたときに、本製品が出てくる場合があります。
- マウスが収納されていないとモニタ部はきちんと閉じることができません。

Point

- モニタをご使用にならないときは、省電力のため電源を切ることを推奨します。本製品の電源スイッチを切っても、キーボード、マウスへは電源が供給されていますので、サーバへの動作は問題ありません。



スライドモジュール押し込み図

6.13 本製品のお手入れ

⚠注意

- モニタの電源を切り、電源ソケットから電源プラグを抜いてください。
- 研磨剤を含む清掃剤やベンジン、シンナーなどの有機溶剤、消毒用アルコールは使用しないでください。
- 水や洗剤、スプレー式のクリーナーを直接かけないでください。液が内部に入ると、誤動作や破損の原因になります。

本製品本体とモニタの筐体を乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときには、水にうすめた家庭用洗剤を浸したやわらかい布をよく絞って拭きとってください。ほこりはやわらかいブラシなどで払ってください。

キーボードとマウスを清掃するには、殺菌した布を使用してください。
キーボードとマウスは、乾いた殺菌した布で拭いてください。隙間にゴミが入ったときはやわらかいブラシなどで取り除いてください。

モニタ画面は、ガーゼなどの乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。ほこりはやわらかいブラシなどで払ってください。

7 技術仕様

● 型名（名称）　FD-5500AT シリーズ

● 電気仕様

定格電圧範囲：	AC100V ～ 240V
周波数：	50/60Hz
定格電流：	AC100V 0.8A、AC240 0.4A
消費電力：	35W/100V

● 外形寸法

本体部：	（W）　×（D）　×（H）
(1) スライドレール縮小時	483mm × 578mm × 43mm
(2) スライドレール伸張時	483mm × 1108mm × 43mm
(3) (2) ＋ LCD 引き起こし時	483mm × 1108mm × 370mm

● 構造　金属ケース、塗装色（黒色）

● 質量　14Kg

● 環境条件

温度：　使用時　5 ～ 35℃
（使用時の結露は避けてください。）
サーバの環境条件に準ずる

● モニタ

パネルタイプ：	17 インチ、TFT カラー液晶
解像度：	最大 水平 1280（ドット）×垂直 1024（ライン）
リフレッシュレート：	最大　75Hz
表示色：	最大　1,677 万色
輝度：	250cd/㎡(Typ)
コントラスト比：	450:1（Typ）
インターフェース：	Mini D-SUB 15 Pin（アナログ RGB）

● キーボード

配列：	日本語配列 /US（英語）配列
キー数：	87 キー　/83 キー
インターフェース：	Mini DIN 6 ピン（PS/2）

● オプティカルリフレクトマウス

方式：	オプティカル方式
SW 数ボタン：	4
インターフェース：	Mini DIN 6 ピン（PS/2）

● ガイドレール（別売）

型格	ラック取り付け穴	添付品及び備考
NC14003-T596/S-R	長穴タップ無し	M5、M6 ネジ添付　前後からの取り付け

8 トラブル対策

症状	原因	対策
モニタが表示しない	AC コードがコンセントまたは本機からはずれた	AC コードを接続する
	AC 電源を OFF した	AC 電源を ON する
	電源ボタンを OFF した。電源ランプ（青色）消灯	電源ボタンを ON する
	サーバからの画像信号がない（サスペンド状態）	サーバからの画像信号を入力する
画質が劣化する（ゴーストや文字のニジミ等）	接続 / ケーブル不良	コネクタの接続を確認する 別ケーブルと交換し、問題が解決したら、良品ケーブルに交換する
切り替えると画面がずれたり、表示できない	解像度が違う	解像度を合わせるか、モニタ側で調整する
	本装置以外のモニタ接続時のモニタ未対応 / 同期が取れない	対応（マルチシンク）モニタにする モニタ側で調整する
キー側面のテンキーがタイプできない	Num Lk が ON になっていない	<Num Lk> キーを押すと Num Lock LED が点灯しテンキーモードになる
目的の文字がタイプできない	Num Lock LED が点灯している	<Num Lk> キーを押しテンキーモードを解除する
	文字の入力モードが間違っている	入力方法の入力モードを選択する
	キーボードの設定が間違っている	正しいキーボードドライバーに設定する（日本語 106/109 キー）

症状	対策
キーボード、マウスが認識しない、等々	Reset スイッチを押してください。それでもだめでしたら、以下の投入手順にしたがって再度接続をやり直してください。 1. サーバの電源コードがコンセントに接続され、電源が OFF されていることを確認してください。 2. サーバのキーボード／マウスコネクタ及び CRT コネクタに専用ケーブルを接続し、次に KVM スイッチの MiniD-SUB15Pin（メス）に専用コネクタ（黒色）を接続します。 3. モニタケーブル、キーボード／マウスケーブルをモニタ及びキーボード、マウスコネクタに接続します。 4. 電源ケーブルを本製品に接続します。次に電源ケーブルを接地電源コンセントに接続します。
画面にちらつきがある場合（KVM スイッチ接続時）	解像度を SXGA（1280 × 1024）以外で使用するときに、場合によっては画面に多少のちらつきが出ることがあります。そのときは、リフレッシュレートの設定を変えてください。
KVM スイッチが壊れた場合 本装置（ドロア）が壊れた場合	KVM スイッチを交換します。KVM スイッチの取扱説明書を参照します。 本装置を交換します。10 ページ「3.3 本製品の取り付け」の逆の手順で取り外します。

設置時における LCD 表示の注意事項

システム設置時、あるいは接続するサーバ変更時に接続するサーバの種類により、表示位置などが多少ずれることがあります。その場合は、画面全体をできるだけ白画面にしてから、AUTO/EXIT ボタンを押して画面の自動調整をおこなってください。

* 自動調整後、下記症状がでる場合は下記「対処方法」により調整作業をお願いします。
* 下記症状は LCD パネルの不良ではありません。

症状	考えられる原因	対処方法
格子状の表示画面がちらつく。	フォーカスが合っていない。	FOCUS を調整してください。
縦帯状の縞模様が見えることがある。	画面サイズ（クロック）の調整が適切でない。	CLOCK の調整をしてください。その後 FOCUS も調整してください。
文字の輪郭がはっきり見えない箇所がある。	フォーカスが合っていない。	FOCUS を調整してください。
黒画面にサワサワノイズが見える。	黒レベルが合っていない。	BLACK LEVEL を調整してください。

* メニュー画面表示方法：MENU/ENTER ボタンを押して対処メニュー（OSD）を選択してください。

【対処メニューの機能内容】

メニュー画面の表示	機能
CLOCK	帯状（縦）のノイズが発生する場合に調整します。
FOCUS	文字のにじみや画面の水平方向のノイズが発生する場合に調整します。
BLACK LEVEL	画面にサワサワとしたノイズが発生する場合に調整します。
RECALL	ご購入時の設定値に戻します。 READJUSTING ＝ 全項目を戻します。 GEOMETRY ＝ 表示している解像度の画面位置、クロック、フォーカスを戻します。 COLOR ＝ ブライトネス、コントラスト、黒レベル、カラー調整を戻します。

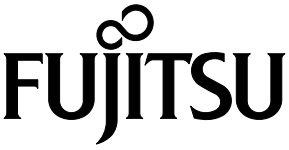
SERVIS™ Drawer Liftup 17inch [FD-5500AT Series]

取扱説明書

発行日　　2007 年 10 月　第 1 版発行
発行責任者　富士通コンポーネント株式会社

Printed in Japan

● 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
● 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権及びその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
● 無断転載を禁じます。



この説明書は再生紙を使用しています。

U53-84450-01
071115 NA